

249

人

四八 受信〇九時四十分 譯了二二三〇 電〇四七三四 作 概

昭和廿年四月九日



● 二二根 戰 概報着信艦所

● 二 警 備 隊

機密第〇七二一四三番電 二分ノ一

第二警備隊 概報 (四月七日)

一、二一五〇一二五 六機北西ヨリ侵入水上基地上空旋回銃撃南方
去ル

二、一三〇一二五 六機一機 (前回ノ号ノガ引返セルモ
ノト推定) 南方ヨリ來襲内一機撃墜 (「ブロンガン」河口附近) 他
機ハ約二時間

一 電信課註 本電二分ノ二未着

通五二一四 呂一七ケ七 (一八三六七五〇) 二一通

高橋 (三石)

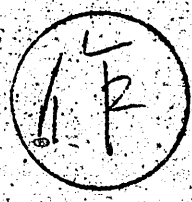
四八

受信開始 一二二〇五

譯了 一五四〇 電〇四七七

作概

昭和廿年四月九日



二二根職國機線着信處所

二管備隊 (タラカン)

機密第〇七二一四三番電 二分ノ二

946

機現場附近ヲ旋回爆彈ハ海中投彈一三三〇北東ニ去ル

三戰果露艦B-I二五 一機被害ナシ

四一七五〇B-I二五 二機北方ヨリ侵入約三時間ニ互リ撃墜機搭乗員(四名)

名ノ「甘ム」浮舟上空ヲ旋回二〇三五何レモ北東ニ去ル

五管隊大鯨魚雷艇ヲ以テ捜索ニ從事セシム

一電信誤註 本電二分ノ一既配布ニ

通五二六一 呂山ヨケ七(一八三六七五四一二)通 加賀(小幡)

大

八
信一五五
了二三〇〇
言〇四七〇三
作概〇

至急

作

横領。九〇三空

海軍。大澤一部。九〇三空串本派遣隊

機密第〇八〇九四七番電

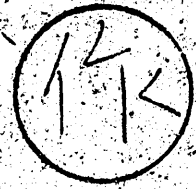
官方擔任木造船ニ對シ音響機雷敷設ノ際發煙彈ニ依ル飛行機掃海ハ
主トシテ九〇三空串本及小松島各派遣隊所屬ノ水偵ニ依リ實施ノ外
ナキニ付右協力方ニ關シ可然御座處ヲ得度。

一九四二年七月 六月廿八日 阪

昭和廿年四月九日

947

父根



四八

受信一二五九
開始一三一五

計了一六二〇

電〇〇四四七六五

作編

昭和廿年四月九日

共

符

父島根戦闘概報着信艦所

機密第〇八一—三三番電 二分ノ二

948

父島特根司令官

父特根戦闘概報 (四月七日)

一〇九五八内地爆撃ノ歸途B一二九 一機來襲中央山地ニ投弾一

九〇五ヨリ二一〇三迄ニ至ル間九次ニ亘リ夜戦ラシキモノ一機

乃至二機宛來襲執拗旋回後飛行場及Pトヲ銃爆撃主トシテ對潛

警戒ニ任シアルモノノ如シ

二〇七四七・一二〇八・一二四八及一四一七ノ四次ニ亘リ哨戒機

ラシキ大型單機本島周邊ヲ通過ス

三戰果ナシ

四被害戦死一 (陸軍) 重傷二輕傷四 (以上設營隊)。

五立二八〇

呂一B分隊(一〇二〇〇名)父島

内田(渡)

四 八 受信二〇一三 丁〇五五五 電〇四九六六
九 開始〇四一〇 〇四九六七

昭和廿年四月九日
教本概 〇

至急



相模航空
虛本機部。機部。明治航空基地。百空（航空基地）

島空（航空基地）

機密第〇八一—三七番電

二分ノ一二

949

第二十聯合航空隊信電令作第七號

第一相模野航空隊司令ハ機密信電令作第九〇號ニ基キ左ニ依リ各機種專

修整備員（主トシテ教官教員及練習生）ヲ第三航空艦隊各基地ニ派遣同

隊ノ飛行機整備作業ヲ援助スベシ

一 派遣期間四月八日ヨリ約十五日間

二 派遣場所及兵力

(1) 明治基地零戦三〇名 彗星三〇名 天山三〇名

通五四九〇

呂一Bヶ七

B

一 横通

藤野・雷永

（一）

(四) 香取基地天山三〇名 (五) 百里原基地零陸三〇名 紫電三〇名 (三) 徳島基地

紫電三〇名

三、其ノ二

(イ) 第二〇聯合航空隊陸信電令特第一〇號及同第十一號ニ依ル各基地派遣期日

ヲ四月二十三日迄ニ迄期ス

(ロ) 本作業ノ爲一時練習生ノ教育(隊内教育及左記基地派遣ノ實習)ヲ中止

スルモ差支ナシ

四 九八 受信開始 〇八三四五 歸了 〇二〇〇 電 〇五〇〇五 作 概

昭和廿年四月九日



東 通・聯合艦隊 口
海上護衛隊 總隊 口
一 航空艦隊 總隊 口
二 遺支艦隊 總隊 口
海支南警 方面 佐 口
警 鳳山分遣隊
喜 漢空

機密 第〇八一二三一 番電

950

四月七日敵機襲來狀況

一 一〇〇〇 〇 〇 一三四〇ノ間 B-1 二四 六五機 P-1 三八 一三機 四
群ニ分レ 逐次高雄臺南新竹方面ニ侵入主トシテ航空基地ニ對シ 投彈
後南下脱去セリ

二 午前午後 P-1 各一機ハ臺灣周邊ノ哨戒飛行ヲ實施セリ

三 戦果ナシ

四 被害

通五四六四 呂一 〇 〇 十八 (一三五二〇) 高雄 品田 (久保田) (H)

海軍側高南航空基地三機大破五機小破（修理可能）戦死二名負傷三名
陸軍民間側損害輕微

（Faint vertical text, likely a list of aircraft or personnel details)

（Faint vertical text, possibly a date or location)

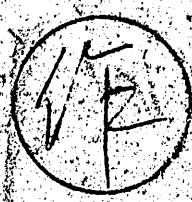
（Faint vertical text, possibly a list of names or numbers)

（Handwritten notes or markings on the left margin)

三月

三一八 受信二二〇〇 四一〇 譯丁〇七二〇 電〇五五五五

緊急 領海 備府



大海客一部。海上警備隊。九五一航空隊。九〇一航空隊。佐領

秘密第一八一二五九番電 四分ノ二

○濟東水路帶崎漢ナ山連結線ノ兩側各一五哩

○濟西水路帶漢ナ山シレン上山連結線ノ兩側各一五哩

○領海警備府設衛部隊ハ固有職任擔任區域ニ拘ラズ主トシテ前記水路帶内
於タル擔任海域ノ海上交通保護及對信作戦ヲ強化

一電信課註 本電四分ノ三四既配布
一東通註 本電再送ノ爲過延

道九四二五 天日ケ六(五二〇〇)一佐通 田中(小幡)

昭和廿年四月九日

四 八 受信一八四七 譯了二〇四〇 電〇四八〇九 作 概
譯始二〇〇〇

至 急

● ケンダリ、航空基地

● 東部空襲部隊戰闘概報着信處所



機密第〇八一三二二番

952

濠北航空隊戰闘概報七日

一、〇四四〇ヨリ〇四五〇ノ間B一、二四計四機北東方ヨリ侵入セルモ

上空旋回後南西ニ去ル飛行場附近「ミスト」アリ

二、一〇〇五ヨリ一〇三〇ノ間B一、二四計七機基地北西方及東方ヲ通

過北東ニ向フ

三、二一〇〇敵大型機一機北東方ヨリ來襲爾後二三〇〇基地附近一帯

ヲ旋回上空ニ四回侵入附近山中ニ二發投彈

四、戦界被害ナシ

通五四六六、呂ニBケ七(一八三六七五)C(一一通)明比(榛澤)

心

四九 緊急
 受信 〇〇八八一五〇
 譯了 〇九三五
 電自 〇〇五五〇〇五〇八
 航作 〇〇
 本〇



九三六航空隊。カットライ水上基地
 海護總口。一護衛艦隊口。一艇根卜
 一三航空艦隊口。一海上護衛隊西貢方面卜

機密第〇八一四四五番電 三分ノ一、二三

發 印支派遣隊指揮官

一「カンボ」基地調査ノ結果離着水域狭小且水深淺クモ乙基地
 トシテ概テ適宿舎士官二〇名兵員五〇名分下交渉済

二「カンボ」行先發隊本日貨車一輛後發隊明日「キノ」撤收
 ノモノハ貨車三準備完成車輛補給ノ上引續對策ヲ講ズル

通 五五六二三八
 五五六一三三
 五七一一三
 天二Bケ六 (四七〇五KG) 高通
 (B) 吳通
 高橋 (田中) (細川) (一)

昭和廿年四月九日

953

三「カムラン」派遣隊ハ當分ノ間水偵四機（搭乗員六組）井上
 大尉以下總員約一〇〇名ヲ殘置シ主トシテ夜間電波探信儀訓
 練竝ニ機動基地（「バンゴイ」側）設營ニ當ラシメ爾餘（水
 偵一機水戰一機人員約四五）ハ遂次「カットライ」ニ發進ス
 四本職十五日頃「カットライ」（「ピエンホア」）ニ機動ノ豫
 定。

手

緊急

一八

受信一九〇〇
開始一九〇〇

了一九二一
一九三九

水陸・運本

昭和廿年四月九日

下 關 防 備 部

吳鎮・吳防戰

海上警備隊・門司、若松谷在勤武官・一陸橋造隊・警・佐

機密第〇八一五〇七番

954

戰闘速報第十一號

一七日九州北岸航路舟瀬移燈浮標ヨリ白(白)日旗(西)二道スル一八

〇度線ノ清掃完了

二航路舟瀬移燈浮標ヨリ二八二度線上左右各三〇〇米航路ノ北端ニ

〇〇〇米間廣附線設八個設置

三度分設置ナシ

五四三九 呂一〇分七(日)吳 斤山(敵田)

作

作

四八
受信一七八二五
譯始一七五五

譯了一九三五
電〇四七九一
作 檄

佐 鎮

大 總 長 臣

各鎮各警・聯合艦隊P・第五航空艦隊P

機密第〇八一七一五番電

955

通報 大 海

佐鎮戰鬪概報 (四月八日)

八日一三〇〇B-I二九一機西方ヨリ來襲工廠及附近ニ投彈セリ戰果
ナシ被害工廠死者三四名負傷者一〇〇名ヲ生ヅルモ施設損害極メテ輕
微作業遂行支障ナシ。

通五四四一 呂一〇七(五二〇〇K) 佐 石毛(福田)

昭和廿年四月九日

四八
受信一九五五
譯始二二四三

譯了二三四五
電〇四八七五

昭和廿年四月九日
災空

作

大

臣・佐領・二二聯空

鹿兒島空

956

機密第〇八一七四五番電

秘

發 鹿兒島空戰圖報

一〇三〇敵機ノ雲上爆撃ヲ受ク被害病舎一棟大破 隔離病舎一棟燒失
隊員使用中ノ民軒一部燒失 戰死約三九名 負傷八九名行方不明
約二名

通五四九八 呂一Bクセ(B) 佐世保 西村(田)

人

昭和廿年四月九日

四九 受信〇〇三五 開始〇〇五五 了〇二〇〇 電〇四九八一 航作 本統 〇

作戰特別緊急

休

九五一空(龍華航空基地) 九〇一空△(戊航空基地)

海護總口・九五一空△・支那方面艦隊口・九五一空(?)・一〇二戰隊

機密第〇八一八五一番電

957

第九〇一航空隊電令第四〇號(海上護衛總部隊電令作第四四一號關聯)

第九〇一航空隊電令第二十七號第二項兵力ヲ本職指揮官下ニ復歸セシ

メラル

九五一空龍華派遣隊指揮官ハ哨戒機ヲ以テ四月十日一〇〇〇以降一

電令作第二六號ニ依ルAS三作戰從事スベシ哨戒要領ヲ定メ報告適

報スベシ

通五六〇六 呂一B々七)五二〇〇K(佐通 谷島(高橋)

TTTT

三九五一空舟山派遣隊指揮官、上海根據地隊護衛部隊ニ協力舟山羣島ノ一八〇海圖内ニ於ケル敵潛艇壓撃滅ニ任ヌヘシ。

leg

人

57

四八 受信二一〇〇 譯丁二三四〇 電〇四八七三 作 概〇

第一 通信 隊

○ 南東方面部隊 戰鬥概報着信處所

機密第〇八一九〇〇番電

R X 方面防備部隊 戰鬥概報第四五五號 (六日七日)

B R X P 〇七五五 B 二五九機陸軍地區爆撃七日來襲概ナシ

戦果被害ナシ

通五五一四 皇二 B (五一二五 C) 日通 市瀬 (内田)

昭和廿年四月九日



四八 愛徳三三二一〇 岸了二三三一〇 電〇四八五三 航橋本〇
岸始三三四五

海急 大湊航空隊

九〇三航空隊下、大管

海上警備隊、津輕防備隊、麻溜艇六三

機密第〇八一九二五番電

一〇五〇〇 ヲリ一八三〇迄延水偵査機哨戒機四機室蘭 戸港問

航路附近ノ索敵並ニ船團監視ヲ實施敵ヲ見ズ

三一八〇〇 神仙丸海士 塔一八三、一八射水丸三三八、三〇何

南下

三明朝 〇四三〇ヨリ索敵實施ノ機定

通五四七 目一〇七七 (三特通) 小森(塩田)

昭和廿年四月九日

959



四九 受信 一八五〇三八 譯了一九五〇 電〇〇五五三〇〇三

作 概

二十二根 戰團概報 着信 艦所

機密第〇八一九二八番電 二分ノ二

第二警戒部隊 戰團概報 (四月八日)

〇六五八ヨリ〇九三〇ノ間 B 二五ノ二 P 三八 二 P B Y 五ノ一機

逐次侵入島ノ西方附近ヲ旋回 P B Y 五 一侵入「ゴム」洋舟ニテ標

流中ノ怪我人ヲ收容〇九三〇金機北方ニ去ル

三一〇五〇 B 一 二四 一機北方ヨリ侵入ミシリンカス及特設見張所附

近海岸ヲ銃撃各機北東ニ去ル

三一〇〇 B 一 二四 一機北方ヨリ侵入島周邊ヲ一周一二二〇北方ニ

去ル 投擲ナシ

一三二〇 B 一 二五 B 一 二四 各一機 東ヨリ侵入上空通過一三三三北

東ニ去ル 戦果ナシ。

五九〇四五九ノ機 一〇時十八分(一八三六七五〇) 廿一編

安彦 東野(猪) 荷(一)

960

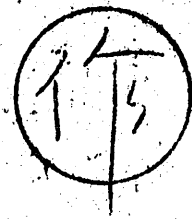
昭和二十年四月十日

五 戦果 P B Y 五 一機ニ命中弾ヲ與ヘ主翼ニ破孔ヲ生ゼシメタルモ
效果不明 被害ナシ

六 B J 二九ノ墜機殘留搭乗員捜索ヲ昨夜大發二隻ヲ以テ終夜實施ス
ルモ暗夜ノ爲之ヲ發見スルニ至ラズ一ゴム一浮舟視野ニ入ルニ敵機
來襲大發ノ出動不可能トナリ敵ヲシテ之ヲ救出セシメタルハ遺憾ナ
リ。

四八 受信 開始 二二三〇二 了 二二三〇 電 〇四八五六 航作 概 〇

至。急



佐 鎮 部 隊

佐 鎮

大海參一部・天一號作戰部隊各戸

機密第〇八一九三七番電

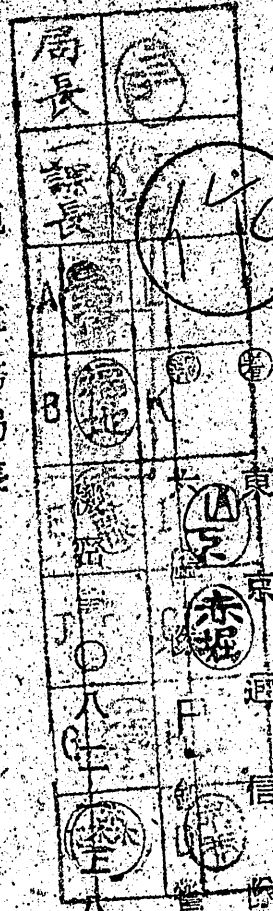
961

佐世保騰守府信電令作第九六號

- 一、本八日一二三〇頃敵艦載機編隊男女群島附近ヲ行動セル狀況ニ鑑
- ニ敵機動部隊九州南西方面來襲ニ對シ嚴重ナル警戒ヲ要ス
- 三、第九五一海軍航空隊司令官ハ本夜「才」哨區飛行哨戒ヲ強化スベ

通五五一三 天二日ケ八(四九一五KC) 佐二放 金子(森田)

昭和廿年四月九日



至急

四九

受信開始 〇〇三〇〇
〇〇四二〇〇

了〇四九五

電〇四九五四

作爲
電
潜艦

昭和廿年四月九日

旅順

宛 軍務局長

通 録 軍 務 局 長

第六陸隊機密等〇七一七〇三番電開

在 庫 量 一 號 重 油 九 七 〇 屯 二 號 七 一 八 重 油 大 連 二 三 〇 〇 屯 (積 出 不

可能量六〇〇屯)

通 五 六 四 一 呂 一 日 夕 七 (五 二 〇 〇 〇) 佐 通

村 山 (田)

962

414

四九

受信開始 一〇一三五

一〇四五

電 〇〇五〇七〇

昭和廿年四月九日



二二 聯合艦隊 口

四 監視艇

機密第〇八二二〇三番電

三分ノ一

963

宛 第二十二戰隊司令官

通報 司令長官

鹿兒島基地へ最近敵艦載機ノ攻撃甚シク監視艇ノ被害大ニシテ此ノ儘ニテハ旬日ヲ出デズシテ壊滅的打撃ヲ蒙ルノ算極メテ大ナリ 尙 附近修理能力貧弱ナリニテ被害艇ノ修理ニ因テ感シアリ 當隊基地ヲ佐伯方面へ對潜訓練隊應令跡ニ移動至急指令ヲ得 度

通五七七三三

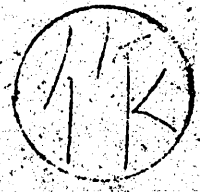
呂一Bケ七(六四九〇K)監視艇

德永 (増田)

人

四九 受信〇五二〇 譯了 一一三〇 電自〇五四四八 作訓
譯始〇八三〇 至〇五四五一

昭和廿年四月拾日



海上護備總口。吳鎮

吳防戰

軍令部第一部 航空 對潛學校

機密第〇八二二五七番電 四分ノ一二三四

吳防備戰隊對潛作戰 三月二十八日 四月六日 豐後水道南方海面ニ於

テ 戰訓通報

一 艦隊又ハ重要ナル船團ノ通航ニ當リ 航路附近及重要ナル海域ヲ磁
探機隊一七機以上ヲ以テ急速掃蕩スルハ極メテ有效ナリ 但シ掃
蕩區域竝ニ時機效果敵潛情報ヲ總括的ニ觀察常時敵潛行動ノ特質
ヲ研究シ置キテ通航艦船ノ航路並ニ通過時刻ヲ考慮ノ上決定スル
ヲ要ス 並ニ受ケタル放送ヲ參考トシ敵潛伏在豫想海面ノ急速掃蕩
通五六七五 五六七八 呂一Dケ七(B) 吳通 川本 金方 (淺岡)
五六七五 五六七八 野木久保田

1150

ヲ實施艦隊出撃 脱?

三月二十八日ノ掃蕩ハ出撃航路未定ナリシ爲メ概ネト受ケタル放
送ニ依リ敵潛行動ヲ推定磁探機隊ヲ以テ索敵運動ヲ實施之ヲ捕捉
水上艦艇協同之ヲ擊滅スリ

(四) 四月六日ノ掃蕩ハ出撃時刻カ急ニ繰上ゲラレタルヲ以テ出撃航
路ニ重點ヲ置キ前夜見張所ヨリ浮上潜水艦ヲ發見襲來前ニ磁探
機隊ヲ以テ之ヲ捕捉水上艦艇ト協力シ之ヲ擊沈シ得タリ

二敵潛擊滅作戰ニ於テハ飛行機ト水上艦艇ノ協同ニ依リ初メテ適確
ナル效果ヲ發揮シ得ルユトハ屢戰訓ノ示セル所ニ對シ兩者ノ行動
ガ相互ニ妨害スルヲ理由トシテ攻撃ノ先行ヲ争フコトハ深ク相戒

ム敵潛存在ヲ確認タルノ後擊滅信念ヲ以テ攻撃スルヲ可トス而
シテ最初ニ敵ヲ探知セバ直ニ通信誘導(電話全幅活用)シ之ヲ逸
セザル如ク交互ニ攻撃又ハ探知ヲ繰返シ協同攻撃精神ノ發揮ニ努
ムルヲ要ス今期掃蕩戰ニ於テ毎回敵潛擊滅ノ戰果ヲ擧ゲ得タルハ
右精神發揚ノ然ラシムル所ト認ム

本電誤字極メテ多シ

昭和廿年四月九日

四九 話受〇三三〇

電〇五〇二二

作機〇
軍需

鹿屋航空基地



佐 通

東通・聯合艦隊口・三航空艦隊口・五、一〇各航空艦隊口

965

佐世保軍需部鹿兒島支部長

佐世保海軍軍需部長

海軍省軍需局長 佐領參謀長

參謀長 第三第五第一〇各

軍務局長 軍令一部長 軍令二部長

下條二夜宿ノ暗黒下電話不通ノ下當支部トシテ燃料兵器其ノ輸入荷車

品ノ急凍分散仕納並ニ各地散在積穴ヨリ各隊ヘノ緊急補給ニ當

通 七二八 B 仙波(三石)

的民情運送業者ノ利用殆下望、難ク一方各部隊兵力利用モ自隊輸送ニ追
 レ餘力ナキノミナラズ臨時派出兵力ノミニテハ暗黒各地散在横穴作業ニ
 不馴ニシテ分秒ヲ競フ揮發油格納作業等ニハ間ニ合ハズ此ノ現状ヲ以テ
 シテハ到底戰鬥時軍需品保管供給ノ完成ハ期シカタク大至急鹿兒島支部
 及鹿屋支庫ニ對シ左ノ特設補給隊（軍隊）ヲ直屬セシムル要スト認ムル
 ニ付可然ク御取計ヒ相成度

特設補給隊編成鹿屋（鹿兒島）ノ順（各）（壹）隊長大尉一（一）隊付
 中少尉准士官一（一）下士官一五（一〇）兵一五（一三）兵作業
 員五〇（二〇）隊付囑託鐵道官一（一）貨物自動車二〇（一〇）軍醫科
 計科尉官各一（一）同兵適宜。

通五七一〇 呂一〇七七 (一〇二〇〇) 父 通 福島 (五)

發 父島通信隊司令
最近蘇黃島敵電報受情況ヨリ判斷スルニ敵ハ蘇黃島ニ於テ對港防禦
網ヲ使用中ト認ム。

機密第〇六〇七三二番電

父根戰團報信處所

四
九
受信〇八〇一〇六 譯了〇九四五 電〇一〇四〇 作標〇
譯始〇九〇〇

共

966

昭和廿年四月九日



四九
緊急

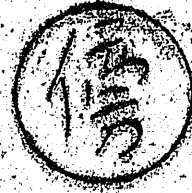
開始一三五七

一五一四

電〇五一六一

航作
概本〇

九〇一〇空(戊航空基地)



九〇一〇空(九〇一〇空博多派遣隊) (大村航空基地)
機動基地航空隊部
指所航空基地
鹿屋航空基地・串良航空基地

機密第〇九〇九三五番電

967

G F 電令作第六〇九號ニ依ル各基地派遣隊指揮官左ノ通定ム
艦上攻撃機猿子大尉艦上攻撃機高田大尉水上偵察機小崎大尉。

通五八三二

呂一〇ケ七(一四九三〇K)上陸

西村(波瀾)

昭和廿年四月拾日

四九 受信一六一〇
開始二〇一五
丁二一〇〇 電〇三三〇四 整

昭和廿年四月拾日

至 急

母島警備隊

横通・聯合艦隊口・父島根

大海参一部・兵備局

機密第〇九一〇五〇番電

968

宛 横須賀鎮守府参謀長

受報者 横廠長 横施設部長

南西諸島方面戦局ノ好轉ニ隨ヒ母島ノ戦備ハ對空ヲ主トスル如ク轉
換スル爲ニ一ニ二種高角砲（二二分一〇門）平射化ヲ促進中ノ處一
部ヲ中止シ工事ノ進捗シタルニ二分ノ五門ヲ平射トシ砲ハ對空用ト
シテ使用スル如ク變更ス。

通五九三八 呂一B七（B）横須賀 風間（雨谷）

考

作

四 一〇 受信一四一四 譯始一七二〇 譯了一八〇〇 電〇五七〇四 航作概本〇

● 第五基地航空部隊戰鬥概報着信艦所

● ヤツブ航空基地

● 三〇 根

機密第〇九一七三〇番電

969

戰鬥概報

一 一〇〇〇一〇四五 PBY 一機 P4U 一三機 P151

二 機一三〇度ヨリ來襲海中ニ投彈各部偵察及銃撃後 P4U 一六

三 二二〇度 P151 九〇度方向ニ去ル 其ノ他視界内飛翔 P B

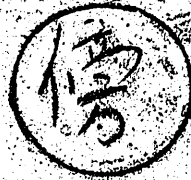
四 M1 一機 ダグラス 一機

三 戰果被害ナシ。

通六三六九 呂ニブラ一四八一五七一〇 EC 三通

水谷 (金森)

昭和廿年四月拾壹日



一九〇〇 受傍二〇二一八五

譯了〇一四五 電〇五三四三

航作概本〇

昭和七年四月拾日

● 鹿屋航空基地

● 藤枝航空基地 ● 關東航空隊 (八丈島派遣隊) ● 香取航空基地
● 伊勢灣航空基地 ● 神ノ池航空基地 ● 關東航空隊 (大島派遣隊)
● 明治航空基地 ● 百里原航空基地

● 横通

機密第〇九一八四二番電

發 關東航空隊司令 第一聯合航空隊 横須賀鎮守府參謀長 横會
司令官

以東航空隊本隊及各派遣隊ハ極力陸戰教練ヲ演練スルト共ニ對空火
器ヲ地上戰闘ニ轉用等ニ付豫メ研究準備スベシ。

通六一二七 呂一B分七 (B) 聯合艦隊口

竹中 (渡瀬)

970

緊急

四九... 始... 二二二六... 二二三五... 了... 二二三三... 三三六七

總無線艦所用共通符號

本

昭和六年四月拾日



東通・聯合艦隊口・三航空艦隊口・横通
小笠原部隊

機密第〇九一八五八番電

971

發信者 南島島守備部隊指揮官

着信者 横領長官 軍令部次長 參謀次長

受報者 第十六潜水隊司令

戰國概報 (四) 月九日

(一) 一四五六・二一〇度三八分ニ探知一四五九 P B Y I 一機發見

投彈セズ

(二) 一五一四・二六〇七〇分ニ探知續イテ B I 二四 十七機來襲

高度三五〇乃至三〇〇〇米ニテ島内及海中ニ投彈

南島 (小笠原) 大石 (小笠原) 1

二 發射彈數

（殘彈數十二纏七高角砲五六（一〇二〇）八纏高角砲三三（二六三三）

三 戰果 ナシ

四 被害

重傷、陸軍兵二名。



四 一 一 受信〇〇九七五〇
發了一〇四五 電〇六〇三四 作 概

昭和廿年四月拾貳日

第二六根

第二六根戰鬪概報着信艦所。第三南遣艦隊各口

機密第〇九二〇一五番電

972

六KB戰鬪概報九日

一〇六四五ヨリ〇九一五迄單發延三〇。一三〇〇。一七四五單發

各二。ワシレ地區銃爆撃〇六〇〇。一〇〇〇。一五三〇PBY

各一カウ灣偵察一三〇〇ヨリ一八〇〇迄單發延カウ灣制壓〇六三

〇三リ一八〇〇迄カウ灣南西(北東)進單發四機宛九(五回)計

三六(二〇)戰果被害ナシ

ニタルハ艦船狀況通信連絡不良ノ爲不明

三モロタイ發進針路北乃至西大型一〇中型八不明三計二一。

通六七八六 呂ニ日ラ一八(六一二三五)二一通 東野(福田)